

行政視察報告書

令和5年2月
総務文教常任委員会

1. 観察実施日

令和5年2月8日（水）午後2時～

2. 参加者

委員長 藤尾 潔

副委員長 別府みどり

委員 長谷川幹雄、古跡和夫、松本美和子、大久保忠義

随行職員 山川美智子（議会事務局次長）

3. 観察先及び調査事項

＜加西市＞ デジタル田園都市構想について

4. 委員会としての観察のまとめ

加西市ではデジタル技術を活用し、市民の利便性向上・地域社会の活性化・それらを支える行政基盤の強化をめざしDX推進計画を策定し、デジタル戦略課を設置しDX（デジタル・トランスフォーメーション～デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。）を推進している。

特長的な取り組みとしては、「健幸アプリでのポイント付与による健康促進の取り組み」「地域通貨ねっぴ～Payの活用（健幸ポイントと連携あり）」「STEAM教育の推進」などがあげられる。また、令和4年度に国の交付金対象の事業を実施する等、市としての強い推進体制が感じられた。

デジタル化に対しては、デジタル活用の得意な方・不得意な方による格差いわゆる「デジタルデバイト」への対策も重要である。加西市においても健幸ポイントを従来は地域商品券と交換を行っていたが、デジタル通貨「ねっぴ～Pay」導入の際、市内では紙の商品券による交換も存続するかどうか議論されたとのことである。ねっぴ～Payに一本化されたのだが、結果としてはねっぴ～Payの利用者も増加し、苦手だった方も慣れて来られたようだとのことであった。

今後とも調査研究を継続し、有効な政策提言につなげていきたい。

5. 各委員報告書

◆藤尾 潔委員長

- ・計画の段階から、市内の業務改善よりも市民生活の利便性向上を念頭に置いておられ、加東市が国の施策決定を待ちながら動いているなか、先行実施の取り組みを積極的に進められていることが印象的であった。
- ・特にDXに二の足を踏む要因となる高齢者への対応について、まずやってみて、できないところをフォローしていくという姿勢が感じられた。また、動いてみた結果、特に高齢者からの苦情が殺到するというようなことにはならない印象を受けた。個別の事業に関しては、

STEAMラボ…大人も含めたSTEAM教育への対応が必要である。

健幸アプリ…加東市でも是非とも導入すべきであり、可能ならば加西市のシステムに乗っかることも検討すべき

ねっぴ～Pay…システム経費等具体的な点を教示してもらえなかったので安易には述べられないが、健幸ポイント制度を導入するなら合わせて導入を検討すべき、と感じた。

◆別府みどり副委員長

加西市議会様には、多方面にわたる内容で、質問にお答えいただき、大変参考になった。特に印象深く感じたのは、担当する職員さんの前向きな姿勢が発言からも感じられたことで、課題はあるが少しづつでも進めていこうと着手されている姿勢は加東市においても取り入れていくべきと思う。

質問項目にもあった、デジタルデバイド対策では、市内の業者にも協力してもらいうなど有用な連携が取れており、また、高齢者向けのスマートフォン教室の開催（シニアクラブ連合会と連携）で使い方を知る→健幸ポイント運動で活用を楽しむ→ねっぴ～Payで使用する、といった流れができているのも良い点と思う。やはりDXを進めていくには、市役所の中、外に限らず、様々な連携が必要となると思うので、加東市でも躊躇しそぎずスマートステップで進めていけるよう取り組んでいきたい。

◆長谷川幹雄委員

今回の視察に於いて、加西市の取り組みは、3つの基本方針の一番目にくらしにつながる市民サービスの利便性向上をもってき、市民サービスの向上に重点を置いて行政の目的が「最大多数の最大幸福」であるととらえ、市民目線でしっかりと計画を進められていることに感心致しました。令和3年度補正で「デジタル田園都市国家構想推進交付金(TYPE1)申請事業にいち早く着手され、安価な体制で推進を図られたことも評価に値します。

スマートフォンを中心としたデジタル窓口で手続き、予約、問い合わせ、窓口支払い等でマイナンバーカードを活用して、各種オンライン決済を加西市独自の地域通貨ねっぴ～Payに、チャージ機能とポイント付与機能を実装して昨年9月から運用している。運用管理を委託し、住民、事業者(店舗)行政をデジタルでつなぎ、経済循環を創出している点も高く評価致します。議会においても加西市は全議員にタブレットを貸与してペーパレス化も進めているとも聞きました。抜きつ抜かれつな進捗状況ですが、本市においても今後DX推進計画により住みよいまち加東市を目指して、議会も行政も一体となって推進すべき計画であると実感した有意義な視察でした。

◆古跡和夫委員

デジタルと一番遠いところにいる私にとっては、自分も使えるようになれば、それなりにメリットがあるのかもと思う話だった。特に、基本方針に「1. くらしにつながる市民サービスの利便性向上」、「2. 地域社会の次代を拓く豊かな創造」が位置づけられ、市職員はそれを実行していくために、「デジタル時代を支える行政基盤の強化」としていることには、なるほどと感じた。

いずれにしても「市民の福祉向上」という地方自治体の仕事が、これによって実現するのなら、問題はないと思うが、自分はついていけない気がする。

◆松本美和子委員

お隣の市である加西市が、どのようにDX推進の計画を進めておられるのか視察させていただいたことで、よくわかりました。オンラインやキャッシュレス化で便利になることは加東市でも進めていけると思いますし、今後そのようになっていくと思います。多くの市民の方が課題としてあげられる公共交通や、高齢者等の見守りでDX推進をしていければと思います。タクシーを電話で呼び出す

のではなく、スマホで予約が出来、ドア to ドアで自由に外出できること、バスもバス停ではなく、乗りたい場所から G P S を利用してバスの居場所がわかり、アプリを利用して自分の居場所を伝え、乗る。関東の自治体でそのような取組みがあるのを、T V で紹介されていて知りました。そのようなことが実施できれば多くの市民の方に喜ばれると思います。しかしながら、一方で個人がでかけた先などが、デジタルで足跡が残る、プライバシー保護や、企業に利用させることのデメリットも十分に注意した上で、安心安全なデジタル田園都市構想について、今後も勉強していきたいと感じました。

◆大久保忠義委員

加西市D X推進計画書の内容を事前に確認しておりましたが、概要版にてご説明を頂き、非常に理解がしやすかったと感じました。様々な質問に対してご回答を頂いた内容で、「どのようにD Xを推進しているのか」は、興味のあるところでした。D X推進計画作成時には、国から地域情報化アドバイザーの派遣を受けたが、現在は専門的なアドバイザーは居ない。との回答には、ご苦労が多いのだと感じました。6つのD X推進検討チームの当初のリーダーを意欲のある職員を庁内応募して配置した。との回答には、非常に驚きと納得をしました。主体性を持った者のチームは、育つのも、人材育成でも非常に大事だろうと感じました。ねっぴ～P a y についても、導入の経緯や運営経費についてもご回答を頂きました。税金を財源として付与したポイントの有効性は見極めしにくく、このポイント（税金）を市内で回していく意図があったとわかりました。地域通貨は、市内で買い物をして、市内で共に支え合う構図が高いのに対して、P a y p a y に税金財源でポイント付与して、ポイント（税金）が市外に持ち出される事があっても、市外の人に市内に来てもらって経済を回してもらう方法とは、一概にどちらが良いとも言えないが、地域通貨の方が、健幸ポイントなど様々なサービスを追加して紐づける事が出来るところに良いところがあるのだろうと思います。D X推進の中では、情報弱者を如何に支援するかが課題である事と、利用者を増やす事がどれだけ難しいかも感じました。ねっぴ～P a y のインストールが 10,000 件を最近に超えたのが、多いと見るか少ないと見るかも評価がわかるかと思います。他の質問の中で、委員会については、W e b での参加が可能との回答には、療養中の自宅や病院からでも参加できるのは非常に良いと感じました。加東市の今後に生かしていくかなければならないと感じました。